

道東・道央支店からの 新年のご挨拶

新春を迎え、皆様のご健勝と益々のご繁栄を心からお喜び申し上げます。

昨年中は、格別なご高配とご愛顧を賜りまして厚く御礼申し上げます。

■温暖化の影響が心配されます。

その影響は、果樹・野菜・花・麦類・大豆・飼料作物などの栽培管理面に影響がでております。これらは、温暖化が原因と考えられる現象が発生しており、その被害も深刻なものとなっています。

酪農・畜産においては、家畜へのストレス・乳牛の飼養環境の変化で乳量・乳質・繁殖・疾病などに影響しています。

又、飼料栽培面にも影響することが予想されます。

①収穫量は増収となっておりますが、嗜好性、飼料価値(採食率・消化率)が低下しております。

②良質粗飼料の確保の為に技術も重要視されております。

- ・播種時期、草種の選択、収穫時期の見直し。
- ・草地の植生の確認も必要になります。
- ・病害の発生、雑草の発生(混入割合の判定)などの防除・裸地の多い圃場への早期対応をお勧め致します。

■18年度酪農飼料基盤拡大推進事業(新事業)

17年3月『食料・農業・農村基本計画』に自給飼料生産目標が策定されました。

・27年までには、飼料自給率35%に、粗飼料自給率を100%の目標を掲げ、これに沿った新事業の展開がされているところです。

畜産においては、家畜排泄物の適正な管理の取組がされていますが、環境問題に対する国民の関心は益々高まっており、今後、環境との調和について適切な対応をとっていくことが急務となっています。

■今こそ、飼料基盤の拡大で自給飼料の増産を

世界の動きを見ますと、ガソリン代替エネルギーとして植物(さとうきび、飼料用原料とうもろこし)からエタノールを生産しガソリンの代替に利用する動きがあります。

- ・将来、米国が輸出している多くのとうもろこしがエタノール生産に利用されます。
- ・中国も2010年までに、国内で販売するガソリンの5割以上をエタノール混合ガソリンにすると報じられています。

今後、飼料用とうもろこしの相場に影響を与え、価格の高騰が予想されます。

この様な環境の中で道内の飼料作物面積、更新率は、決して進んでいないのが実態であります。

自給飼料の拡大に向けて具体的な取組が重要であります。

①デントコーンの作付 ②草地更新 ③簡易更新
弊社も自然・環境との共生を常に意識して行動致します。

本年も弊社の牧草種子・野菜種子・乳酸菌・配合飼料等を通じて皆様にお役に立つ様、努力する所存で御座います。

皆様の一層のご発展と健勝をご祈念申し上げ新年のご挨拶と致します。

道東支店長 橋場 義孝

平成19年の新春を迎え、謹んで皆さまのご健勝と、ますますのご発展を心よりお祈り申し上げます。

昨年中は格別なご高配とご愛顧を賜り誠にありがとうございました。心から厚くお礼申し上げます。

今年も引き続き変わらぬお引き立てを賜りますよう心からお願い申し上げます。

昨年における北海道の酪農は、牛乳の消費低迷から需給バランスが崩れ、生乳1,000トンの破棄や減産型計画生産の実施により今までにない誠に厳しいスタートとなりました。

また、4月の低温続きによりまして融雪が遅くれ畑が乾かなく農作業も大幅に遅延し、更には6月下旬からの断続的な降雨や日照不足で牧草の収穫やとうもろこしの生育が大幅に遅れ心配しておりましたが、牧草は品質面では厳しかったが乾物収量では平年作となり、とうもろこしもその後の好天により実入りも良く平年並みの収量をあげる事が出来ました。

一方、北海道の生乳生産量は4~5月前年を上回って推移しましたが、6月以降減少し10月以降は前年比95%を割っており、平成18年度の生乳減産型計画生産の計画達成は極めて厳しい状況となって参りました。

国は平成27年度を目標に飼料自給率35%、粗飼料自給率100%と非常に高い数値目標を掲げ飼料自給率向上対策を展開しておりますが、昨年度から5年計画で始まりました酪農飼料基盤拡大推進事業は、減産型計画生産や環境保全対策とリンクし飼料自給率の向上に取り組む生産者に対し奨励金は基礎部分と加算部分の二段階方式で交付され、加算部分では①濃厚飼料給与の低減②経産牛頭数の削減③経産牛の90日放牧のいずれか一つを選択し実施すれば、基礎部分と加算部分の合計で15,500円交付されます。加算部分では放牧のメリットが再評価され草地基盤に恵まれている北海道では放牧の導入が取り組み易く急増に繋がっております。

昨年7月には米国産牛肉が輸入再開され、今年はWTO農業交渉やオーストラリアとの自由貿易協定交渉などにより関税の引下げや撤廃等が想定される中、牛乳の減産型計画生産や乳価の減少、更には配合飼料がエタノールの需要増によるとうもろこしの大幅値上げや油粕類、糟糠類等飼料配合原料価格の高騰から配合飼料価格も今後大幅な値上げが予想されます。

このような時こそ良質の自給飼料を万全に生産するために、土地作り、早めの草地更新、簡易更新、そしてとうもろこしの作付け面積の拡大による増産でカロリー源の確保、適品種の選定、適切な肥培管理、適期刈取り、適切な収穫調製を行い低コスト生産で国際競争に勝ち抜き経営の安定拡大を図るようお奨め致します。

今年も弊社の優良牧草種子をはじめ園芸種子、酪農資材、肥料、乳酸菌、配合飼料等を通じ、より良い商品を揃え地域に密着した企業を目指し皆様の生産性向上にお役に立つ様、全社一丸となって努力する所存でございます。

本年も相変わりませぬ倍旧のご愛顧とお引き立てを賜ります様お願い申し上げます、新年のご挨拶と致します。

道央支店長 寺栖 喜久男

雪印種苗株式会社

編集発行人 岡村 一範

本社004-8531札幌市厚別区上野幌1条5丁目1番8号

TEL (011)891-5911 FAX (011)891-5774